

第2回 大和高田市教育環境あり方検討委員会 議事概要

開催日時	令和7年2月20日（火）10時00分～12時10分
開催場所	大和高田市役所3階庁議室
出席者	委員 10名（学識経験者、自治会代表、PTA代表、校長会代表） 事務局 7名（教育長、教育委員会事務局）
欠席者	委員 2名
事業者	株式会社パスコ
案件	1. 開会の辞 2. 議事 （1）第1回あり方検討委員会の主な意見について （2）アンケート調査結果について （3）適正規模・適正配置の考え方及び主な手法について （4）委員会等のスケジュール及び予定する議題について （5）その他 3. 閉会

議 事 の 経 過	
発 言 者	発言の内容
事 務 局	1. 開会 ・第2回大和高田市教育環境あり方検討委員会を始めさせていただく。 ・委員の皆さまにはお忙しい中ご出席いただきお礼を申し上げます。 ・開会にあたり大和高田市教育委員会教育長、梶木義敏よりごあいさつを申し上げます。
教 育 長	・11月5日の第1回の会議から3か月が経過。その間にアンケート結果の分析や計画の進め方について検討してきた。 ・委員の皆さまには、さまざまな検討材料の中から大和高田市の子どもたちにとって理想的な適正配置・適正規模について考えてもらいたい。 ・残された時間はそれほど多くはない中で最善の方法を見いだすとともに子どもたちの教育環境を守っていくために協力を得て、よりよい道を探ってまいりたい。 ・有意義な会議になることをお願いして開会のあいさつとする。
事 務 局	・都合により2名の委員が欠席されているが、過半数の委員が出席しており、大和高田市教育環境あり方検討委員会設置要綱第6条第2項により本検討委員会は成立することをご報告する。 ・資料確認。 ・本会議は議事録作成のため録音し、広報用に会議風景の写真を撮影するのでご了承願いたい。 ・以降の進行は委員長にお願いする。
委 員 長	2. 議事 ・本日は12時までの2時間ということで進めていきたい。 ・第1回あり方検討委員会の主な意見について、事務局より説明をお願いする。
事 務 局	(議題1) 第1回あり方検討委員会の主な意見について ・資料説明
委 員 長	・説明についてご意見、ご質問があればお願いする。
委 員	・学級の想定人数は35名としているが、例えば今年度片塩小学校では1学年35人を超えているが1クラスのところがあるのは何故か。
事 務 局	・35名以上という基準はあるが、片塩小学校の場合は特別支援の児童数も含めて35名を超えており、通常学級のクラスに入れないので、35人のボーダーラインを切っているとして現状1クラスと想定している。
委 員	・特別支援学級の子の数をクラスに入れないのは、どうしてなのか。
事 務 局	・通常学級35人の基準がある中で、クラスとしては35人を超えているが、通常学級を配置するときの考え方として、特別支援学級の生徒数は含まないという基準があるので、現状1クラスになっている。

委 員	・特別支援学級の子が仮に 10 人でも、クラスの人数には入れずに 1 クラスとするのか。
事 務 局	・通常学級の 35 人の配置を考える中では含まないとしている。 ・在籍は特別支援学級であり、適正に先生が配置され、適正な授業、カリキュラムでクラスが運営されているとご理解いただきたい。
委 員	・1 日のうち特別支援学級に入るのは基本的に半日以上という形になっているため、それ以外は通常学級で授業を受けている。 ・授業によって特別支援学級と通常学級に分かれて、特別支援学級では 1 人の子を見て、残りの子たちは通常学級の担任の先生がクラスの一員として見ることもある。ずっと支援学級にいるわけではない特別支援学級の子をクラスの人数に含めない状態で数えるのは理解できない。
事 務 局	・制度的には、それが教育を進めるうえで大きな課題になっている。 ・学校の先生を配当するという基本的な部分において、特別支援学級に所属する子どもたちの数に対して何人の先生を配置するのか。 ・特別支援学級に入らない子ども 35 人に対して 1 人の先生を配置するという縛りがあるので、それで計算することになるが、場合によってはインクルーシブで人数が 35 人以上になることもある。 ・10 人、15 人となって大きなクラスになる場合もあるが、そのときは困らないように市費で講師を入れたり、サポートしてくれる人を入れたりということになる。 ・資料として出しているのは、何人の場合は 1 クラスになる、2 クラスになるというシミュレーションで、実際の教育はサポートしながら行っているのが現状である。 ・35 人以上で教育が行われている場合もあるので、現状については別途検討していただく。
委 員 長	・他にご質問、ご意見はないか。 ・主な内容を抜き出して説明してくれたのでよくわかったのではないか。 ・次に、本日の大きな柱であるアンケート調査結果について説明をお願いします。
事 務 局	(議題 2) アンケート調査結果について ・資料説明
委 員 長	・ご意見、ご質問があればお願いします。
委 員	・35 ページ、望ましい 1 学年あたりのクラス数で、35 人を超えると 2 クラスになるということは、40 人だと 1 クラス 20 人になる。なぜ 35 人を超えているのに 1 クラスの学校があるのか。 ・手厚さや個々の生徒に対する配慮といった部分で、2 クラス必要としているのに 1 クラスというのは納得いかない部分がある。

委 員	・トラブルが起きたときに保護者がクラス替えを希望しても、1クラスではそれができない。担任の先生が対応することになると思うが、担任の先生の負担が増えすぎる。 ・精神的にしんどくなって辞める先生も多い。もともと教員が足りていないのに、そこで先生がいなくなるような形は取りたくないの、1クラスになる場合は考えてほしい。
事 務 局	・現状35人という基準はあるが、子どもの数の減少も含め、適正なクラス数について意見をもらい議論していく必要があると考えている。 ・例えば来年度、36人であれば2クラスになるが、34人だと1クラスになる。20人のクラスと34人のクラスができたときに、子どもたちへの対応や支援、先生方の対応を考えると当然、負担が変わってくる。 ・もちろん市から県に、20人と34人では事情が違うので特別な配慮・配置を要望するが、要望どおりにいかないこともある。その場合は、市として、現場の先生の負担にならないように活動補助員を配置するなど、子どもたちに支援が行き届くように配置を考える必要がある。 ・補助については7年度においても引き続き必要であると考えている。 ・特別支援の子どもたちについては、通常学級とは別に療育など、必要な学習を個別に行うという環境の中で、8人あたり1人の先生が配置されるという特別支援学級だけの定数基準もある。通常学級で活動するときもあるが、そういった形で補っている部分もある。
委 員	・教室の広さという部分でも、40人になると十分なスペースが確保できるか不安である。 ・グループトークをするために机を移動しようとしてもしにくい。活動のしやすさも変わってくる。 ・特別支援学級は児童8人に対して先生が1人と謳っているが、8人全員が一緒に特別支援学級の授業を受けるわけではないので、通常学級の人数に含めないのは理解できない。通常学級で活動する時間もあるから、そこも含めた配置が必要ではないか。
委 員 長	・他にあるか。
委 員	・アンケートの通学方法の考え方で、スクールバスなどによって安全に通学できるのであれば、再編統合の通学距離は問わないという選択肢があるが、距離が遠くなった場合、遅刻した子はどうするのか。
委 員	・親がいれば親に送ってもらえるが、親が先に仕事に行くと子どもは自分でカギを閉めて学校に行くことになる。時間に間に合わず、スクールバスが行ってしまったら、その子は長い距離を1人で歩いて行くのか。
事 務 局	・今後スクールバスを導入することになった場合は、ご指摘いただいたことも想定しながら、低学年の子どもや勤めている保護者の方、バスに間に合わなかったときの対応も含めて検討していく必要があると考えている。

委 員 長	・スクールバスを運用しているところは案外あるので、調べながら対応を考えていくことが大事になる。 ・他に質問等はないか。 ・3の適正規模・適正配置の考え方ともつながってくるので、3番を進めながら2番に戻るといった形でよい。
事 務 局	(議題3) 適正規模・適正配置の考え方及び主な手法について ・資料説明
委 員 長	・この委員会では4ページの部分を決めていくことになる。 ・多くの市は適正規模の基準があり、基本的にはそれに基づいて行っている。 ・今までのところでご質問、ご意見はあるか。
委 員	・大和高田市を載せてくれると比較しやすいが、載せていないだけではなくて、そもそもないのか。決まっていないのか。
事 務 局	・国の適正規模の基準に基づくと小学校は12学級から18学級であるが、市に応じた適正規模を考えていきたい。
委 員	・他の市町村は国の基準もあるが市としての基準も持っているのか。
事 務 局	・何らかの形で現在、再編統合に取り組んでいるか、すでに取り組まれており、この基準に基づいて再編統合をかける。 ・本市はこれから取り組んでいこうとしているので、議論で定まったものをここに載せられる状況になる。そのように考えてもらえるとわかりやすいのではないか。
委 員	・子どもの数が減って1クラスではあるが、大和高田市は2クラスにしたい。それが適正と決まったら、それだけの教員を確保するのは可能なのか。県との兼ね合いもあって難しいのではないかと個人的に思ったりする。2クラス、3クラスと決めたとしても、教員が足りなければ結局1クラスになる。
事 務 局	・例えば学年2クラスと決めたら、1年から6年まで1クラスという学校を再編統合等によって解消し、先生を配置できるようにしていく。そういう考え方である。
委 員 長	・あくまでも、教員配置は法律で定められているので、それに基づいて行うことになる。 ・適正規模を市として決めたとしても、そうならない場合は学校を再編することにより適正規模に近づけるという考え方である。 ・他にご質問、ご意見はあるか。
委 員	・小学校区の図はなぜ直線距離なのか。
事 務 局	・あくまで目安として直線で示しているが、距離については実態に合った把握が必要になる。

委 員	・図では直線距離 20 分で近いという感覚になるが、決められた安全なルートでしか行けないとなると、寄り道もせずに 40 分もかかった。 ・実際片塩ではなくて浮孔の方が近い。校区の見直しにもなってくる。
事 務 局	・現状の校区を見直すことで適正な配置になることも考えられるので、それも含めて考えていく必要がある。 ・入学したばかりのお子さんのことも踏まえ、単に基準だけでなく、さまざまなお子さんがいることも想定しながら考えていく必要がある。
委 員	・通学路の危険性に関しても見直してもらいたい。車が通らない道を選んでいと思うが、一方通行の薄暗い道ではなく、ある程度は車や人が行き来する、危なくない道を選んでほしい。 ・遠いと最終的に 1 人になるので、見直してもらいたい。
事 務 局	・距離だけではなくて環境の部分も踏まえて安全性を考える必要がある。
委 員	・中学校で自転車通学が増えると事故も増えると思われる。 ・自分たちの頃と自転車での通学許可が出る距離はあまり変わっていないが、気温は上がっている。保護者から、この暑さの中を歩かせるのか、部活で疲れて歩くと倒れそうになった、習い事に間に合わないといった意見があった。中学校の自転車通学の制限も見直してほしい。
委 員 長	・説明の続きをお願いする。
事 務 局	・資料説明
委 員 長	・14 ページ、次回提案してもらうことになるので、それに向けて特に小学校・中学校について意見をいただきたい。 ・アンケートも踏まえてつくことになる。皆さんの意見が大きいので、ぜひご発言いただきたい。
委 員	・望ましい規模とは、現状で考えるのか。それとも、希望として、これくらいが望ましいと考えるのか。どちらなのか。
事 務 局	・現状の子どもたちの環境も含めて、将来的に求められる教育環境が変わってくると思うので、将来も含めて、現状は 2 クラスから 3 クラスであるが、引き続きその規模が望ましいのか、それ以外に望ましい規模を考える必要があるのかご意見いただきたい。
委 員 長	・現状を踏まえるのはもちろんであるが、これから先のことも含めて考えなければいけない。 ・1 クラスが増えてくることが予想されている。アンケート結果では小学校は 2 から 3 クラス、中学校は 3 から 5 ラスという希望があるので、それも含めてということになる。
委 員	・小学校は最低でも 2 から 3 クラス、中学校は 3 から 5 クラスではないかと感覚的に思っている。1 クラスを孫たちが経験しているが、1 クラスではあまりにも少ない。
委 員	・大和高田市の人口の減り方は説明のとおりだと思うが、何年後を見据えて考えればよいのか。

事務局	・資料１－３をみていただくと、現状やアンケートから、例えば子どもたちの集団活動や教育環境を考えて２クラスが望ましいとなったときに、令和７年には小学校は２から３クラスで推移しているが、令和１７年には８小学校のうち５小学校が１クラスになる。そのタイミングが、２クラスを維持するのであれば再編を考える時期になる。 ・一方で建物、ハード面になるが、老朽化している建物をそのまま使えるのかどうか。単に部屋数を合わせるだけではなく、新しく求められる教育環境、子どもたちに必要な環境を今以上につくっていく必要がある。 ・教室の形であったり、黒板であったり、トイレであったり、特別支援学級だったり、配慮が必要な子どもたちも増えているという現状もあるので、個別に行き届いた配慮を行うためにも必要なクラス数、教室が必要になってくる。 ・アンケートで学校の役割として放課後の子どもの居場所という意見が多かったので、児童ホームの確保も必須になってくる。 ・それを考えると、現状の建物を使えば１７年にそれができるのか。さらに先を見据えて、子ども数の推移を考えたいうえで新しい建物という意見があるかもしれない。そこは委員さんそれぞれのご意見をいただきたい。 ・時期的には２クラスであれば令和１７年が目安になると考えている。
委員長	・令和１７年頃から一斉に統合を進めるというイメージか。
事務局	・一斉に進めた方が子どもたちには公平で、市民の理解も得やすいと思うが、施設が確保できるかどうか検討する必要がある。 ・もちろん地元の方、学校現場、保護者の同意が必要になってくるので、同意を得られたところからスタートすることになる。
委員	・一斉にスタートするのか。あるいは緊急に手をつけなければいけないところも出てくると思う。 ・小学校８校区の中のどれを動かすのか、解体するのかという計画を立てる場合は、一斉にやらなければならないと思う。 ・例えば五條のように、年次進行でＡ校とＢ校を統合する方法もある。やり方によって変わってくるから決めておくのは難しい。
委員	・奈良県で高校再編がスタートしたのは平成１６年で、埋まるまでに５、６年かかった。その後に次の再編がされたので、学校名を見てもどこの学校かまったくわからなくなった。そういう話を近所の人から聞いたが、確かにそうだと思う。
委員	・令和１７年度からスタートしたとしても、１７年度だけを見るのではなく、それよりも１０年先のことを考えなければいけない。それを踏まえて、統合したばかりなのにまた統合するということがないようにしなければならない。
委員長	・そういう考え方も必要になってくる。

委 員	・それを考えるのであれば、市の人口推移で年少人口（15 歳未満）と生産年齢人口（15 歳から 64 歳）、この取り方はあまりにも大雑把すぎる。 ・何歳から何歳までの人がこれだけいて、この年代になると何歳になる。1 歳ごとの人口推計の資料も参考として付けてもらえるとありがたい。
委 員	・令和 17 年に減る学校が何校かあって、減らない方に統合していくことになる。違うのか。
委 員 長	・それをどう考えるか。吸収されるわけではない。
委 員	・統合するとした場合、校舎が使えるかどうか。老朽化しており、耐震工事も必要になる。大きな問題で、新しい校舎を建てるのならそれに越したことはないが、統合した場合に元となる学校が使えるのかどうか。一番は子どもの安全である。
事 務 局	・市の小学校は 40 年以上、50 年近くたっているもので、10 年後を考えると、例えば人数的には 8 校を 4 校にできたとしても、どの学校で維持していくか、建物の耐用年数などについても検討する必要がある。 ・いずれも 50 年を迎えるので、長寿命化しても 70 年までの建物になってくる。近い将来、10 年、20 年後、新たな建設を考えなければいけない。それも踏まえて、建物を維持することが効率的なのか、大きなスパンで考えていく必要がある。 ・同時に、事務局として、建物の耐久の部分と、4 校にしてそれぞれの施設を改修して使うとなった場合に必要となる費用と、新しくした場合にどれだけの費用が必要か、資料として持っておきたいので、委員の皆さんにも次回お示しできればと考えている。
副 委 員 長	・小学校の教員を 20 年以上していた経験から、望ましい学校規模のあり方として 3 クラスが妥当である。 ・学級担任で、自分の学級さえよければということでは教育的な効果は上がらない。その中で、一担任が学年のすべての子どもを把握できるのは最大限 3 クラスまでなので、小学校は 1 学年 2 クラスから 3 クラスが妥当である。 ・孫が通う小学校が各学年とも単学級で友達関係に悩んでいる。単学級は子どもにとっては大変、新しい友達とつながるという部分でも単学級はなくしていきたい。 ・この調査結果で気になったこと、配慮しなければいけないと思ったのは、土庫小学校の教職員の将来的にも再編統合する必要はないという意見。土庫小学校は単学級で、保護者全体の望ましいクラス数は複数クラス、市民も 8 割方は再編統合で小学校は複数クラスという話になっている。その流れは変えられないと思うが、土庫小学校の先生たちは、土庫の子どもたち、場合によっては親も含め、1 人ひとりにきめ細やかで丁寧な配慮が必要だと考えている。そういった地域があることをわかってほしい。そういうところも当然、統廃合の際には考えなければいけない。

委員長	・別の観点で、単学級の場合は1人の先生が1年間のカリキュラムや学習内容を全部やることになるが、複数になると力を合わせてできるので、教育環境ということにもなるかと思ったりする。 ・教員の視点で考えると、卒業生ばかりを見ているが、単クラスに入った卒業生と複数クラスに入った卒業生はまったく違って、何よりも隣の先生を見ながら自分もやってみる。この効果もすごく大きいと思う。教育環境の充実を考えると複数学級が必要になってくる。
委員	・前提として、人口の推移は、今後これにあらがうことはできないのか。何かしらの施策を講じて子育て世代を呼び込むという話もよく聞くので、そういう仕組みがあれば少しは変えることができる。それができれば学校の再編の仕方も変わってくる。長期的なスパンで検討する際には、都市計画などによって市がどうなっていくかも入れておく必要がある。 ・適正規模も将来にわたって変わっていく。社会の発展が今後どのように進んでいくかわからないが、学校は1人1台のタブレット端末を活用して新たな教育を模索、改革に向けた動きを進めている中で、オンラインという形で小規模学校が大規模学校とつながって意見交流を行う。教員同士もさまざまなネットワークを使って情報交換をしている。1人ですべてを担うのではない。責任はあると思うが、別の形で情報を入手する方法ができたので、やり方によっては変わってくると思っている。 ・古い世代なので、今後できそうなことを想像することはできないが、将来を見据える必要がある。10年後には別の視点の考え方ができてくる。そこに対して負の遺産を残さないようにしたい。
委員長	・負の遺産を残さないようにするのは大事なことである。
委員	・小学校自体、子どもたちが社会性を学んでいく場である。ある程度の人間関係があり、交流があり、先生方とのふれあい、地域の方とのふれあいがあり、子どもたちの社会性や人間性を育てていく場であると思っている。
委員	・今までの経験上、2学級、3学級、4学級あってもいいので、人数がいる中で子どもたちを育ててあげたい。子どもたちにとって多くの学びがある。体験できる、経験できる環境ができるのと同時に教員も、それだけの人数がいる中で切磋琢磨しながら、縦のつながりや横のつながりで子どもたちを見ることができる。教員にとっても充実した環境をつくることのできるのでは、双方によいのではないか。これが大きな視点なのかと思っている。

委 員	・通学路に関しては、60 分近く通学時間を使っている子どもたちもいる。特に低学年になると歩くのに時間がかかる。5 分で行けるところは 5 分で帰れるが、20 分かかるところは休憩したりするので 25 分、30 分と長くなればなるほど余分な時間がかかってしまう。特に今の時代、通学路については慎重に考える必要があり、適正としては 30 分までに収まる範囲で考えてもらいたい。
委 員 長	・時間が押しているので、議題 4 について説明をお願いします。
事 務 局	（議題 4）委員会等のスケジュール及び予定する主な議題について ・資料説明
委 員 長	・ご質問、ご意見はあるか。
委 員	・今日のテーマとは別でもよいか。教育委員会にお尋ねしたい。 ・1 月 31 日に浮孔小学校の PTA が総会を行い、PTA が解散することになった。小学校は 100 周年を迎える。PTA もそれに近い歴史があると思うが、PTA が解散とはどういうことなのか。 ・PTA は、法律で決まった団体ではなく有義団体と解釈している。有義団体ということは、縛られることなく、発足しようと思えば解散しようと思えばいいわけで、他の団体から横槍を入れられる必要はないと思うが、総代会の総代会長として、総代会という組織と PTA という組織と婦人会という組織で人推協（人権教育推進協会）という組織を持っている。その中の 1 つが消えることになる。理由としては、なり手がいない、やりたくない、共働きで暇がない、自分の子どもだけでも育てるのが大変。いろんな理由で逃げ腰というか、やりたくない。委任状をつくり集まった人たちだけで投票して絶対多数で解散が決まった。しかも、3 年ほど前に片塩小学校も解散しているから、高田市で 2 番目になる。教育委員会として情報は得ていたと思うが、何かアクションはされたのか。どういう考え方をされているのか、お聞きしたい。
事 務 局	・それを聞いたのはみんなを集めて採択をとる直前である。 ・教育委員会としても、PTA の要望があり、通学路で危ないところは言ってもらい早急に改善してきたが、集約してくれる窓口がなくなるので、子どもの安全を確保するのが遅くなったり、抜けたりする可能性もある。
事 務 局	・そういった点で心配する部分もあるので、何とかならないかと校長先生を通じて PTA の会長と副会長に伝えてもらうように努力はしてきたが、現時点では残念ながら解散の方向に動きとしてはなっている。 ・それ以上は、残念ながら強制力はないので、注視している状況である。
委 員	・学校から教育委員会への情報が遅かったということ。
事 務 局	・もっと早い時期に聞いていれば、空白の期間を置くのは可能かという話もできたかと。
委 員	・先生と親が結びついて PTA なのに、それが解散するのは結びつきがない。ボランティア的にやっていく。

委 員	・ 役員の名前がなければ、誰がどうするかわからない。疑問を持つ。
事 務 局	・ 当然、子どもの安全・安心は守らなければいけないので、学校や保護者と密に連携して対策を講じていく。他の学校と同じようにやっていかなければいけない。
委 員 長	・ 時間になったので、以上で終わらせていただいてもよいか。 ・ 進行を事務局にお返しする。
事 務 局	・ 最後に、配布している参考資料 2 のご説明をさせていただいてもよいか。 ・ 参考資料 2 説明。
委 員 長	・ ご意見等があれば教育委員会に直接お申し出いただきたい。
事 務 局	・ ホームページにも載せて、アンケートも一部公表したいと考えている。
委 員	・ 第 3 回は、配置に関して意見を出してもいいということか。 ・ 個人的には義務教育学校が気になっている。小中 9 年間という教育的効果が上がるようなイメージを持っているが、意見を聞かせてもらおうと課題も多く簡単ではない。参考資料として義務教育学校のメリット・デメリットもお願いしたい。
事 務 局	・ 次回、義務教育学校の資料もお示しする。 ・ 適正規模を考えたときに、学校をどのように維持していくかも課題になってくる。単に 2 クラスにするのではなくて、適正規模がある中で、市として小規模な学校を維持していく必要があるかも踏まえて、ご意見をいただきたいと考えている。
事 務 局	3 閉会．議事 ・ 本日は、皆さまのご協力により、第 2 回教育環境あり方検討委員会を終了することができた。 ・ 次回は令和 7 年 4 月に第 3 回検討委員会を開催する予定である。日時が決まったら文書にて連絡する。 ・ なお、今回の資料はお持ち帰りいただき、次回検討委員会にお持ちいただくようお願いする。 ・ これで第 2 回大和高田市教育環境あり方検討委員会を終了する。